

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ひろげよう！子育てひろばのわ
事業実施者	ふちゅう子育て応援団連絡会、子育て支援課
事業目的	市内の子育てひろばを広く周知し利用者を増やすことで、子育て家庭を応援し子育て家庭の孤立化を防止する
事業内容	市内の子育て情報や子育てひろば団体の紹介や体験
事業目標	市内の子育てひろばを周知する

1 評価結論	B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。 事業の立ち上げ時より課題解決に向けたニーズや目的が双方で共有できており、情報共有を密に行いながら顔の見える信頼関係が構築されている。 立場の違いを理解しつつ、市民側の要求に市が柔軟に対応できる体制を整えることで、更なる発展が期待できる。
2 事業について	子育て家庭の孤立防止への取組として、双方が共通認識をもって実施している事業である。事業開始時から参加者数、参加団体数共に増加しており、成果を挙げている。子育てに不安を抱える若い夫婦や市外からの参加もあり、ニーズが高く、今後の継続性や発展性が期待できる。
3 協働の広がりの可能性	イベントを通じて団体間の情報共有や市の他部署との連携ができています。参加者の増加を受けて会場の規模を拡大するなど、事業の拡大に積極的である。他の事業者や中間支援機関と連携することで更なる発展が期待できる。
4 意見交換会を踏まえて	市民と市が役割分担をしながら、それぞれの担当者が熱意をもって取り組んでおり、相互に協力しながら顔の見える関係性を構築している。
5 まとめ	協働で事業に取り組むことで単独では解決できない課題解決に繋がっている。事業は子育て世代の直接的な支援につながると共に、参加する団体同士の交流が生まれ、子育て支援を行う団体の中間支援的な役割も果たしている。

【評価の結論】A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	ちびっ子ふれあい文化祭
事業実施者	府中ちびっ子ふれあい文化祭実行委員会、地域コミュニティ課
事業目的	地域の子どもたちの交流を通じたコミュニティ活動の活性・拡充
事業内容	文化センターで活動している小中学生が一堂に会し、活動の成果発表
事業目標	ふれあい及びリーダー養成を目的に実施

1 評価結論	A:協働事業として適切で優れていると評価できる。
	子どもたちの学びや創造の場として、積極的かつ有効な取組である。役割分担ができており、互いを理解し尊重し合っている。情報共有もできており、課題を解決しながら取り組んでいる。過去の参加者が当事業に関わることができる仕組みをつくることで、更なる発展が期待できる。
2 事業について	主役である子どもたちの結束、学びや創造の場としてだけではなく、他の地域の子どもたちや市民、職員との交流の場となっている。情報共有を行い、改善をしながら課題解決に取り組んでおり、実績がある事業である。エリアを越えたサークル発表など、更なる発展を期待したい。
3 協働の広がりの可能性	過去の参加者が当事業に関わることで、職員や実行委員の負担軽減も図ることができるとともに、養成したリーダーによるサポート体制が機能することで更なる発展が期待される。
4 意見交換会を踏まえて	事業の継続と役割分担の明確化など、協働の視点が強く意識されているとともに、協働の蓄積や実績が、市全体の取組として具体化している。また、参加者だけではなく、事業実施者の達成感にもつながっており、事業成果という点でも素晴らしい取組となっている。
5 まとめ	市内11か所の文化センターにおける小中学生の日頃の成果発表の空間を、エリアを越えて協働で作り上げており、非常に積極的な取組であるとともに、学びや創造の場として、とても有効な取組である。協働の視点も意識されており、毎回改善しながら取り組んでいる。参加者だけではなく、事業実施者の達成感にもつながっている取組である。

【評価の結論】 A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。

府中市協働事業 第三者評価シート

事業名称	武蔵府中熊野神社古墳まつり
事業実施者	武蔵府中熊野神社古墳保存会、ふるさと文化財課
事業目的	全国的にも珍しい本古墳を広く活用し、広くこの古墳を周知し、地域の活性化を促すこと
事業内容	古墳のライトアップ、古墳コンサート、古墳パレード、各種出店コーナーなど
事業目標	本古墳をより多くの人に知ってもらい、また、郷土の文化財・歴史を守る気運を高める

1 評価結論	<p>A:協働事業として適切で優れていると評価できる。</p> <p>お互いに役割を理解し、尊重し合い、協働事業を進めているとともに、古墳を地域の財産として理解し合いながら課題や目標の共有もできている。 また、日頃から密に連絡を取り合っており、協働が浸透している。 市の強みを活かして、教育機関への働き掛けなどを行うことで、より一層事業の発展が期待できる。</p>
2 事業について	<p>地域の歴史・文化を活用した事業であり、その必要性・重要性を市側・団体側ともに理解し、共有している。 屋外の事業で、天候に左右されるという課題があるが、課題についても共有し、密に連絡を取り合い、対応している。</p>
3 協働の広がりの可能性	<p>市や武蔵府中熊野神社古墳保存会会員のネットワークなどの強みを活かし、教育機関や団体、企業への働き掛けを進めることでより一層広がりの可能性がある。</p>
4 意見交換会を踏まえて	<p>武蔵府中熊野神社古墳まつりの時だけでなく、密に連絡を取り合っており、良い関係が築けている。 また、より多くの教育機関、団体、企業を巻き込むことで、伸びしろが大いに期待できる事業である。</p>
5 まとめ	<p>お互いに尊重し合い、地域の財産として理解し合いながら、協働事業を進めており、府中らしさである歴史・文化が充分感じられる事業である。 市側が団体の会議に毎回出席するなど、情報共有が積極的に行われており、今後に期待できる。 現状、西府圏域に留まっているが、教育機関と連携することで次世代を担う子ども達への広がりを生み出すなど、より一層の拡大を期待する。</p>

【評価の結論】 A:協働事業として適切で優れていると評価できる。

B:協働事業として適切であるが、一部改善することで、更なる発展が期待できる。

C:協働事業としておおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

D:協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

E:協働事業としては不十分であった。